

(様式第4号)

上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議概要

1 会議名	上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会
2 日時	令和7年1月20日(月) 午後2時00分から午後3時30分まで
3 会場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出席者	上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員22名 上田地域振興局企画振興課長、上田地域広域連合事務局企画課長(オブザーバー)
5 事務局 出席者	上田市政策企画部長、上田市政策企画課、上田市連携事業担当課、 東御市企画振興課、青木村総務企画課、長和町総合政策課、坂城町企画政策課、 立科町企画課、嬭恋村未来創造課
6 公開・非公開	<u>公 開</u> ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 4人
8 会議概要作成年月日	令和7年1月30日

協 議 事 項 等

1 開 会 (上田市政策企画課長)
2 委嘱状交付
3 あいさつ (上田市長)
4 委員自己紹介
5 会長・副会長選出 ・会長に中村彰委員、副会長に井戸田弘委員を選出
6 議 事 (1) 第3次上田地域定住自立圏共生ビジョンの変更(案)について ・資料に沿い、事務局から概要を説明 ・質疑等なし (2) 第3次上田地域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について ・資料に沿い、事務局から概要を説明 ・以降、協議 (委 員) 取組内容No.23「上田草津線運行事業」について、上田草津線は現在、人員不足の影響により全便運休になっているとのことであるが、今後の見通しをお聞きたい。 また、取組内容No.26「デジタル技術等を活用した取組の推進」について、産業、防災など個別分野のDX化について、どのような検討がなされているのか。 嬭恋村では今年秋に新たに文化会館が開館する予定である。文化施設の運営にあたり、人材育成等を目的とした人事交流について、可能な範囲で検討いただきたい。 (事務局) 上田草津線は令和2年の運行開始当初から運行事業者による自主路線として運行してきた。これまで共同運行をしていた事業者による回送便を活用する形で運行を維持していたが、2024年問題による労働時間規制強化により、共同事業者が毎日草津便に乗り入れることができなくなったことから、運休に至ったとお聞きしている。将来的な見通しについて、現時点では行政の立場からお答えすることはできないが、このような状況であることをご理解いただきたい。 (事務局) 「デジタル技術等を活用した取組の推進」について、上田地域定住自立圏では令和4年度から取組を始めている。市町村ごとに推進体制等の状況が異なることから、まずは情報交換からということで取組をスタートし、国のデジタル田園都市国家構想交付金に関する自治体ごとの活用状況などについても意見交換を行っている。情報共有を図ることで、ある程度市町村間の足並みを揃えながら取組を進めていきたいと考えている。 (事務局) 文化施設の運営等における人事交流を行うことは十分可能である。自主事業の企画や舞台技術の関係など、どのような部分での交流を希望されているのかお聞かせいただきながら、時期の調整なども含め検討させていただきたい。

(委 員) 千曲川ワインバレー特区の誕生により、この地域に多くのワイン関係者やお客様が来てくれるようになり、成果が出た良い事例であると感じている。一方で、現在の東御市では田中駅からタクシー事業者が撤退してしまっている。秋になるとワイン用ブドウの収穫に訪れてくださる方が多くいる中、タクシーがいないのは死活問題である。デジタル技術の導入により、市町村の垣根を越えたタクシーの配車サービスなど効率的な運営ができるよう検討をしていただきたい。

(事務局) 東御市では昨年から AI を活用したデマンド交通の充実を図っている。平日昼間のサービスではあるが、電話予約をすることで 10 分ぐらいの単位で場所から場所への移動ができる仕組みとなっている。公共交通については非常に大切であると考えており、今後、広域での連携ができるかも含め検討をしていきたい。

(事務局) 千曲川ワインバレー特区協議会においても、イベントを開催する中で、来場者の交通手段をどう確保するのかということは大きな課題となっている。協議会においても課題について共有を図り、解決策を一緒に考えていきたい。

(委 員) 取組内容№.3 「子育て支援施設 ゆりかご運営事業」について、上田市立産婦人科病院の閉院に伴い、現在の施設利用は日中のみとなっており、また、類似した事業として産後ケア事業の需要が高まっているとのことであったが、今後の事業の方向性についてどのように考えているか。

(事務局) 上田市立産婦人科病院の閉院により、「ゆりかご」は宿泊利用を中止し、デイサービスのみの利用となっており、今年度の利用希望がない状況が続いていることから、今後の施設のあり方について協議をしている。

産後ケア事業では、宿泊型、デイサービス型に加え、上田市では令和 6 年度から訪問型を追加して取組を進めており、この訪問型の発展系として、「ゆりかご」を活用できないか検討をしているところである。駐車場やベッドなども整っている環境であるため、産後ケア事業者とも連携を取りながら、施設の有効な利活用につなげていきたい。

7 その他 特になし

8 閉 会

(事務局) この圏域を構成する 7 市町村は同じ生活圏であり、行政としても一つのエリアとして力を合わせて補い合いながら、いかに圏域全体の生活の質を上げていくかをしっかりと考えていかなければならないと思っている。

本日は、委員の皆様から今後に向けて参考となる貴重な意見をいただき感謝申し上げます。今後の取組に生かしていけるよう考えていきたい。来月開催される連絡協議会においても本日の内容を各市町村長に報告させていただく。